

1カ月で一生役立つ!

「話す力」「聞く力」の次元が変わる 発音記号の基本

特集



現在、世界にはさまざまな英語のアクセント（方言）があります。

イギリスを例にとりましょう。英語の発祥の地であるこの比較的小さな国でも、いわゆる「イギリス英語」、正確には「標準イギリス英語（Received Pronunciation, RP）」を話す人はイギリスの全人口の3%ほどと言われており、実際にはこの「標準イギリス英語」以外のさまざまな英語のアクセントが話されています。

それでもなお、イギリスの教育の場や公的な場所での手本となるのは、「標準イギリス英語」です。英語を外国語として学ぶ場合、イギリス英語なら「標準イギリス英語」を、アメリカ英語なら「標準アメリカ英語（General American）」を規範として学ぶのが良いとされています。

では、なぜ、これらが規範となるかということ、それが世界の多くの人にとって「わかりやすい英語」だからです。音声的にわかりやすいというよりも、それを規範としている場合が多いので、その音声を聞く、学ぶ機会が多いのです。

規範となる英語から外れれば外れるほど、コミュニケーションが困難になります。例えば、一般に「インド英語」はわかりづらいと言われるのですが、その理由は、「規範となる英語」にインド独自の言語の特徴が加わった結果として、独特な特徴を持つ英語になっているからです。具体的には、Wednesdayを「ウェドウンズデイ」と発音したり、巻き舌の[r, t, d]があったりといったものです。

そういった意味で、英語発音も「標準的な英語」に近ければ近いほど、コミュニケーションがスムーズにいきます。しかも、発音が正しくできると、リスニングが楽になります。というのは、日本語と英語は音体系がかなり異なるため、日本語式の発音で発音していると、それに耳が慣れてしまい、英語特有の音体系が聞き取りづらくなるのです。聞き取れないということは、意味の理解にもつながらないということです。

本特集では、発音記号の正確な理解を通して発音を徹底的に学習しましょう。

執筆者 米山明日香（青山学院大学准教授）

発音記号はなぜ重要か：発音を診断する

仕事柄、発音に関する相談を多く受けます。一番多いのは「どうやったら発音がきれいになりますか?」といったものです。しかし、よく考えると、これは不思議な質問です。

発音というものを「きれい」「美しい」といった「印象」でとらえる人が多いようです。しかし、「発音を印象でとらえること」は避けた方が良いでしょう。というのも、「うまい」の反対語は「下手」で、「きれい」の反対語は「汚い」です。「発音が下手」とか「発音が汚い」といったとらえ方は好ましくありません。「印象」だけで発音をとらえていると、「ただ舌を巻けば英語っぽく聞こえる、ネイティブっぽく聞こえる」という残念な考えにつながります。

重要なのは、「正確に発音すること」です。

この特集では、どのように正確に発音するかについて、

発音記号 (phonetic symbols) を用いて解説していきます。この発音記号を攻略することができれば、発音が「正確」になり、発音を客観的にとらえられるということです。

では、そもそも人はなぜ発音を印象でとらえるのでしょうか。それは発音が「目に見えない事象」だからです。目に見えないものは印象でとらえがちです。しかし、発音記号はその目に見えない音声を視覚化してくれるものなので、発音記号をマスターすることによって、「発音の正確さが増す」のです。

さらに発音記号は音楽でいうところの「音符」のようなものです。音符の読み方がわかるとメロディーが奏でられるのと同様に、発音記号が読めれば、その正確な音を再現できるというわけです。

発音診断クイズ

では、まず皆さんは発音を正確にできているか、発音記号はどれくらい読めるかを診断してみましょう。

以下のクイズに答えてください。

10点満点で採点してください。スマホなどで音声を録音することをお勧めします。

Part 1

以下の単語を発音してみてください(正しい発音は音声を聴いて確認)。

28

- ① law
- ② comfortable
- ③ vacancy
- ④ hierarchy
- ⑤ indictment
- ⑥ miscellaneous

Part 2

以下の発音記号を発音してみましょう。

29

- ⑦ [tʃó:klət]
- ⑧ [dʒúəri]
- ⑨ [méʒə]
- ⑩ [jú:ʒuəl]